

## 20年先を見据えた社会課題解決に挑戦

**UPDATE  
JAPAN**  
ヤフーのCSR

当社のミッションは「課題解決エンジン」として、情報技術で日本の人と社会のあらゆる課題を解決することです。私たちの企業活動のすべては、ここからスタートしています。

そして当社が課題解決エンジンとして実現したい世界を表すビジョンが、「UPDATE JAPAN」です。情報技術とデータの力を解放し、あらゆる課題を明日の希望に変えていくことを、私たちは「UPDATE」と呼びます。

当社が20年先も、100年先も、皆さまに必要といただけるインターネット企業であり続けるために、私たちは、CSRの領域においても情報技術で人々や社会の課題を解決することで、社会の幸福度を最大化し、日本を「UPDATE」したいと考えています。



### 「4つのUPDATE」で未来を創る

もちろん、当社の力だけで日本のあらゆる課題を解決できるわけではありません。けれども、当社はこうした社会の実現を目指し、先駆者として挑戦していくことを宣言します。当社が最も力を入れて社会の課題解決を目指していく領域を、「4つのUPDATE」として決めました。

|                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| <b>UPDATE 1</b><br><b>情報技術社会の発展</b>   | 情報技術が人々や社会のために健全に貢献する社会を目指します。              |
| <b>UPDATE 2</b><br><b>災害・社会課題への支援</b> | 災害への取り組みを当社グループが自ら行うほか、NPOなどの社会課題解決者を支援します。 |
| <b>UPDATE 3</b><br><b>ダイバーシティの推進</b>  | 多様な人が活躍・共存し、個性を認め合う社会を目指します。                |
| <b>UPDATE 4</b><br><b>持続可能な社会への挑戦</b> | 自然・社会の環境を、持続可能な形で未来世代に引き継ぎます。               |

これらの「4つのUPDATE」を中心に、皆さまの声を伺いながら、事業を通じて社会的役割を果たしていきます。

### ステークホルダーとのコミュニケーション

さまざまなステークホルダーの皆さまの声を積極的に聞き、「4つのUPDATE」を推進し、持続可能な社会の発展と企業価値の向上につなげていきます。

| ステークホルダー | コミュニケーション方法と内容   | 目的・企業活動への反映   |
|----------|--|---|
| ユーザー     | <ul style="list-style-type: none"> <li>サービスごとのご意見フォームなど問い合わせ窓口の設置</li> <li>ユーザーインタビュー、サポーターズクラブの開催</li> <li>インターネット・SNSでの情報収集</li> <li>公式HP・SNSなどを通じた、会社情報や事業内容の発信</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>カスタマーサービスの質の向上</li> <li>サービス品質の向上</li> </ul>   |
| 株主・投資家   | <ul style="list-style-type: none"> <li>年次株主総会</li> <li>決算説明会</li> <li>国内外機関投資家との個別対話</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>経営状況などの適時適切な情報提供</li> <li>建設的な対話を通じた経営の質の向上</li> </ul>                               |
| 取引先      | <ul style="list-style-type: none"> <li>取引を通じた日常的なコミュニケーション</li> <li>広告主、コンテンツパートナー、eコマース出店者などの各取引先様との会議、研修会、イベントの開催</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>相互信頼に基づく緊密な関係構築</li> </ul>   |
| 従業員      | <ul style="list-style-type: none"> <li>従業員意識調査</li> <li>ホットライン（内部通報制度）</li> <li>ハラスメント相談窓口</li> <li>社内イントラサイトを通じた情報発信</li> <li>社内プロジェクトの積極実施</li> <li>退職者の集い「モトヤフ」の実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>職場風土の改善</li> <li>労務・人事諸施策の評価・立案</li> <li>人権および多様性の尊重</li> </ul>                      |
| 地域・社会    | <ul style="list-style-type: none"> <li>官民共同プロジェクトへの参画</li> <li>経済・業界団体への参加</li> <li>捜査機関との連携</li> <li>各拠点での地域貢献活動・イベント協賛</li> <li>コーポレートフェローシップ（官公庁・自治体への人材派遣）</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域コミュニティへの積極的参加</li> <li>国・業界全体の活力向上のための施策提案</li> <li>先進技術を用いた社会的課題の認識・解決</li> </ul> |
| 未来世代     | <ul style="list-style-type: none"> <li>「Yahoo!きっず」の提供</li> <li>教育機関との子どもの教育施策の協働</li> <li>「Hack Kids」「Yahoo! JAPAN MeetUP」などの実施</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どものインターネットへの適切な接点の増加と社内外への啓発</li> <li>次世代のインターネット社会を見据えた施策の実施</li> </ul>            |

### SDGsと当社グループの取り組み

SDGs（持続可能な開発目標）は、2015年9月に国連加盟国193か国が全会一致で採択した行動計画です。貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など17の目標・169のターゲットから成り、2030年までに目標を達成することを目指しています。

当社は、SDGsの取り組みを、最も力を入れて社会の課題解決を目指していく領域「4つのUPDATE」に分類しています。

| 「4つのUPDATE」                           | SDGs                                       | 取り組み事例  |
|---------------------------------------|--|---|
| <b>UPDATE 1</b><br><b>情報技術社会の発展</b>   | <b>4</b> 質の高い教育をみんなに                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>Yahoo!きっず</li> <li>子どもたちのインターネット利用について考える研究会</li> <li>Hack Kids</li> <li>Hack day</li> <li>Hack U</li> <li>IT人材育成プロジェクト</li> <li>教育機関と連携したIT教育の推進・人材の育成</li> </ul> |
| <b>UPDATE 2</b><br><b>災害・社会課題への支援</b> | <b>1</b> 貧困をなくそう <b>2</b> 飢餓をゼロに           | <ul style="list-style-type: none"> <li>災害カレンダー</li> <li>Yahoo!防災速報</li> <li>Yahoo!ニュース特集</li> <li>スポンサードコンテンツ社会貢献版</li> <li>Yahoo!ネット募金</li> <li>Yahoo!基金</li> <li>reU funding（リユー ファンディング）</li> </ul>    |
| <b>UPDATE 3</b><br><b>ダイバーシティの推進</b>  | <b>5</b> ジェンダー平等を實現しよう <b>8</b> 働きがいも経済成長も | <ul style="list-style-type: none"> <li>ウーマンPJ（女性の活躍）</li> <li>レインボー・プロジェクト</li> <li>どこでもオフィス</li> <li>えらべる勤務制度</li> <li>フリーアドレス</li> <li>コワーキングスペース</li> </ul>  |
| <b>UPDATE 4</b><br><b>持続可能な社会への挑戦</b> | <b>13</b> 気候変動に具体的な対策を <b>14</b> 海の豊かさを守ろう | <ul style="list-style-type: none"> <li>次世代データセンターの建設</li> <li>再生可能エネルギーの導入</li> <li>一般社団法人フィッシャーマンジャパンとの連携</li> <li>社内レストランでのブルーシーフードの利用</li> </ul>   |

## 当社グループが取り組む「4つのUPDATE」

当社グループは課題解決エンジンというミッションの実現に向けて、「4つのUPDATE」を推進し、社会課題の解決を目指していきます。



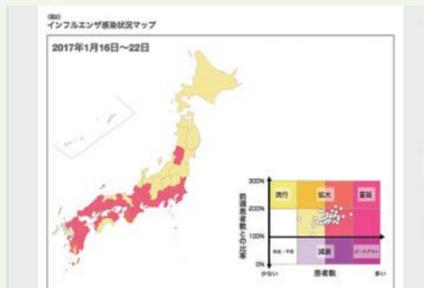
より詳細な内容は、当社のCSRレポート (<https://about.yahoo.co.jp/csr/>) に掲載しています。掲載内容は2017年5月現在の情報です。

### 1 情報技術社会の発展

#### ビッグデータを活用し社会課題の解決へ

「Yahoo! JAPAN ビッグデータレポート」として、「Yahoo! JAPAN」に匿名化され、蓄積された検索・広告・ソーシャル上のトレンド情報など、あらゆるカテゴリの膨大なデータを分析・活用し、データの持つ力と面白さを伝えています。

大規模災害時には、指定避難所以外に、人々が集まる隠れ避難所をいち早く特定し、必要な救助、支援を行うことが必要です。ビッグデータを活用し平時の混雑状況を把握することで、発災時に人々がどのあたりに避難しているのかを推測する「Yahoo! JAPAN 研究所」の取り組みなども紹介しています。



#### 検索で「救える人」を増やすために

「Yahoo!検索」では、「いじめ」「自殺」「危険ドラッグ」「消費者トラブル」など、様々な社会の問題に関するキーワードが検索された場合、正しい情報や相談窓口を、わかりやすく検索結果画面の上部に表示。また、一部スマートフォンの検索結果画面から表示された番号をクリックすると、直接相談窓口に電話もできます。抱えている問題を少しでも早く、正しく解決できるよう各省庁と連携した取り組みです。

(連携先) ●24時間子供SOSダイヤル:文部科学省 ●こころの健康相談統一ダイヤル:厚生労働省 ●あやしいヤクヅツ連絡ネット:厚生労働省 ●消費者ホットライン:消費者庁



### 2 災害・社会課題への支援

#### 震災の記憶を未来に残す自転車イベント

「ツール・ド・東北」は、東日本大震災の復興支援と、震災の記憶を未来に残すことを目的として2013年から毎年開催している自転車イベントです。第4回となった「ツール・ド・東北2016」では総勢3,764名のライダーが宮城県三陸沿岸(石巻市、気仙沼市、女川町、南三陸町)を駆け抜けました。

本イベントは、復興を長期にわたって支えるため、10年程度の継続開催を目標としています。今後は被災地に年間を通してより多くの方に訪れていただくため、官民一体となったサイクルツーリズムによる地方創生も目指していきます。



#### あらゆる災害情報をすばやくお知らせ

「防災速報アプリ」は、緊急地震速報や豪雨予報、土砂災害、熱中症、河川洪水、火山などあらゆる災害の情報をプッシュ通知でいち早く受け取ることができるスマートフォン向けの無料アプリです。誰でもどこでもいつでも、自分に必要な命を守る情報を受け取ることができます。(防災速報メール版に登録すると、PCや携帯電話へメールで通知することも可能です。)

また、地域の「災害情報」や「避難所の情報」、「防犯情報」などを配信できるシステムを自治体にも提供しています。



### 3 ダイバーシティの推進

#### 時代にあった新しい働き方に挑戦

2016年10月の東京・紀尾井町オフィス移転にあわせ、フリーアドレス制を導入しました。あえて机をジグザグに並べることで、従業員同士が接する機会・コミュニケーションを増やしています。

また新設された日本最大級のワークスペース「LODGE (ロッジ)」では、利用者同士を結び付けるコミュニケーターを導入しています。コミュニケーションを活性化させ、「情報の交差点」を作り出し、新たな事業やサービスにつながるイノベーションを生み出していきます。



#### 時間や場所にとらわれない働き方へ

時間や場所にとらわれず、どのような場所でも働ける「どこでもオフィス」(2017年5月現在、月5回まで)を導入しています。在宅でもカフェでも効果的に働ける場所で勤務可能で、通勤時間やラッシュのストレス軽減、時間を最大活用し、自己研鑽・育児・介護などの対応もしやすくなります。2016年度の活用率は81.4%です。

今後、労働人口減少への対応や介護、育児などライフステージにあった柔軟な働き方が重要になります。生産性を上げる働き方を発信しながら、日本の働き方改革に取り組みます。



### 4 持続可能な社会への挑戦

#### 環境配慮型の次世代データセンターを建設

2008年に福岡県北九州市に環境対応型の次世代データセンター「北九州データセンター」を建設しました。同センターでは外気を活用した空調システムの採用により、最大4割弱の空調消費電力の削減を実現しました。

2012年には福島県白河市で環境対応型の大規模データセンターを稼働。「北九州データセンター」の外気空調システムを進化させ、建物形状と空調設備を徹底的に見直し、年間を通じて90%以上の外気利用が可能となりました。今後もこのようなデータセンターを増やし、環境保全に貢献していきます。



#### 生物多様性の保全に貢献

生物多様性の保全と地域貢献を目的に、東京・紀尾井町オフィスのある東京ガーデンテラス紀尾井町が進める「都心の貴重な緑地をつなぐエコロジカル・ネットワーク(生態回廊)の形成に貢献する街づくり」に協力し、ビオトープ(生態環境)整備による生物多様性の保全と再生の取り組みを行っています。

具体的には、オフィス周辺の居屋内濠で棲息が確認されているホテルを身近な生物多様性の保全・再生の象徴として、紀尾井町のビオトープでも棲息できる環境の構築を2016年6月から推進しています。

